

た。バックに何か使いたいと思ってても布もなく、かつて小林さんの師であった目白の大久保作次郎先生のお宅に伺い、古い布を貸して頂いた。卒業制作展のときは、作品の成績順に並べ、教室を大きく広げて展覧会場とした。

⑮ 終戦直後の写真資料について

終戦後の数年間は記録資料が少なく、学史の記述を十分になし得ないのが実情であるが、幸い写真については小松光義氏をはじめとする卒業生、あるいは関係者の方々から多数の提供があり、予想外の充実をみた。そのなかには現在エジプト写真家として著名な仁田三夫氏が撮影したものが多く含まれており、特に高山夏期研究会や第一回芸術祭、各科教室の様子などを如実に知ることができるのはそれらの良好な写真のおかげである。

仁田氏は浦和中学校卒業後、東京写真専門学校に入り、講師として教えに行っていた西田正秋を知り啓発を受けた。西田と氏は戦争が終ったら一緒に中国の石仏の写真を撮りに行こうと計画していたという。十九年に同校を卒業したが、戦後二十一年初頭から二、三年の間、本校の西田研究室に出入りし、その間、浦和中学の先輩の岩田健氏が彫刻科在学中であったことなどにもより、本校生たちとの交流が生まれ、そのため行事の折には氏が写真の腕を振るうことになったのである。